

TOTO テクニカルセンターとノリタケの森

～日本の技術力をこの目で確かめよう～

9月5日（金）、俄かに発生した台風のおかげで当日朝まで開催の可否が分からない状態であったにも関わらず、地元のみならず関東や関西からも、雨の中、早朝から総勢 33 名（会員 20 名、非会員 11 名、スタッフ 2 名）が、TOTO 株式会社（以下 TOTO）名古屋テクニカルセンターに駆けつけました。

午前中は、会議室で座学。TOTO について、WASHLET の生まれた背景、普及率、便器の工夫などについて学び、その後 3 班の小グループに分かれて、テクニカルセンターへ移動。TOTO の方の、デモンストレーションを交えた説明を聞きながら見学しました。日本人の細部に亘るこだわり、快適と清潔への飽くなき追求、そしてそこまでやるか！という驚きの機能の数々に、ただただ目を見張るばかりでした。



質疑応答の時間には、質問が途切れず、販売価格や海外で使用できるかなど、実際にお客様に聞かれた経験のある方も多く、お客様の関心度の高さがうかがえました。また技術の高さや、日本人ならではのこだわりも、海外のお客様に伝えたいという熱い気持ちが湧いてきました。

午後からは徒歩で 15 分ほどのところにある、ノリタケの森へ移動。TOTO はノリタケ（旧社名：日本陶器）の衛生陶器部門が、1917 年に分離独立してできたグループ企業という繋がり。



ノリタケは、衛生陶器だけでなく、高圧碍子やファインセラミクスなど、日本の近代陶業を生み、育ててきた偉大な会社で、言わずと知れた、日本で初めて洋食器の制作に成功しました。中でも有名なのが、ボーンチャイナ。ノリタケでは、ボーンチャイナの製造工程を見ながら学べるクラフトセンターと、明治から戦後に

かけて海外輸出用に作られた芸術的オールドノリタケ製品の数々が、ノリタケの歴史と共に学べるミュージアムを、事前にノリタケ社員から研修を受けた JGA 会員スタッフの説明を聞きながら見学。最後は、ノリタケの歴史や、現代の工業製品の展示のあるウェルカムセンターを各自見学して終了となりました。

TOTO の研修は全国で行われていますが、日本の陶業の中心であり、TOTO の生まれた地である名古屋で、そのルーツのノリタケと共に研修ができたことは、特別な意味があったと思います。地元中部のみならず、関東、関西の方も今後この地をガイドされる際のヒントとなれば幸いです。



TOTO・ノリタケ研修スタッフ一同